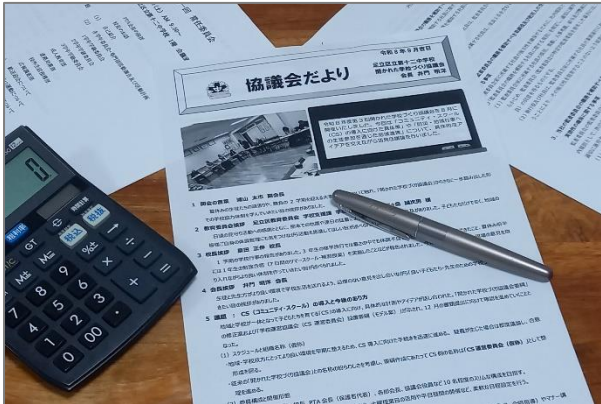


令和 8 年 9 月吉日



協議会だより

足立区立第十二中学校
開かれた学校づくり協議会
会長 井門 明洋



令和 8 年度第 3 回開かれた学校づくり協議会を 8 月に開催いたしました。今回は「コミュニティ・スクール（CS）の導入に向けた具体策」や「防災・地域行事への生徒参加を通じた地域連携」について、具体的なアイデアを交えながら活発な議論を行いました。

1 開会の言葉 浦山 太市 副会長

夏休みの生徒たちの頑張りと、勝負の 2 学期を迎える大事な時期について触れ、「開かれた学校づくり協議会」からさらに一步踏み出した形での学校協力体制を学んでいきたい旨の挨拶がありました。

2 教育委員会挨拶 足立区教育委員会 青少年課 学校地域連携担当 三ヶ島 誠次男 様

日頃の見守り活動への感謝とともに、熊本での地震や連日の猛暑による熱中症リスクについて言及がありました。子どもたちだけでなく、地域の皆様ご自身の体調管理にも気をつけながら活動を推進してほしい旨が述べられました。

3 校長挨拶 原田 正伸 校長

1 学期の学校行事の報告がありました。3 年生の修学旅行では暑さの中でも体調不良者を出さず無事に帰着できたこと、夏休み前半には 1 年生の勉強合宿（7 日間のサマースクール・補習授業）を実施したことなどが報告されました。今後の CS 導入に向け、現場の意見を取り入れながらより良い体制を作っていく旨が述べられました。

4 会長挨拶 井門 明洋 会長

生徒と先生方がより良い環境で学校生活を送れるよう、忌憚のない意見を出し合いながら「良い子どもたち・先生のための学校づくり」を進めていきたい旨の挨拶がありました。

5 議題：CS（コミュニティ・スクール）の導入と今後のあり方

地域と学校が一体となって子どもたちを育てる「CS」の導入に向け、具体的な計画やアイデアが話し合われた。「開かれた学校づくり協議会要綱」の修正案および「学校運営協議会（CS 運営委員会）設置要綱（モデル案）」が示され、12 月の書類提出に向けて確認を進めていくこととなった。

（1）スケジュールと組織名称（仮称）

- ・地域・学校双方にとってより良い環境を早期に整えるため、CS 導入に向けた手続きを迅速に進める。疑義が生じた場合は都度議論し、合意形成を図る。
- ・従来の「開かれた学校づくり協議会」との名称の紛らわしさを考慮し、要綱作成にあたって CS 側の名称は「CS 運営委員会（仮称）」として整理を進める。

（2）委員構成と開催形態

- ・足立区の規則に基づき、校長、PTA 会長（保護者代表）、各部会長、協議会役員など 10 名程度のスリムな構成を目指す。
- ・参加者の負担軽減および教員の働き方改革の観点から、土曜授業日の活用や平日昼間の開催など、柔軟な日程設定を行う。

（3）CS 予算やネットワークの活用策

- ・教育活動の充実：CS 予算を活用し、外部専門講師による表現指導（運動会のよさこい・ソーラン節、創作ダンス、合唱指導）やマナー講座、熱中症対策グッズ（ミストシャワー等）の設置を検討する。
- ・職場体験の強化：2 年生の職場体験において、協議会メンバー等の地域ネットワークを活用して受け入れ先事業所の開拓をする。
- ・学校見学機会の創出：土曜授業公開や給食試食会などに合わせて協議会を開催し、普段の子どもたちの様子を直接見学できる機会を増やす。

(4) 組織の再編と新たな取り組み案

- ・現在の部会（評価部会・家庭教育部会・土曜事業部会・広報部会）に加え、新たに「地域連携事業部」や「安心安全事業部」を新設・整理する提案がなされた。

6 部会

- ◇**評価部会**：学校から提出される評価関連の資料に基づき、期末の学校評価に向けて粛々と準備を進めていく旨が報告された。協議会として生徒・保護者・地域の声を適切に反映できるよう、引き続き連携を図っていく。
- ◇**家庭教育部会**：熊本地震や近年の災害を受け、保護者の関心が高い「親子で参加できる防災・災害講習会」の開催に向け検討を行っている。土曜授業日などを活用し、講師の都合と合わせた日程調整を進めていく。
- ◇**土曜事業部会**：サタデースクールでは、3年生が少人数教室、1・2年生が図書室で集中して学習に取り組んでいる。学生ボランティア（主に十二中出身者）が3～4名参加しており、生徒たちと温かい交流を交えながら手厚い学習サポートを行っている。

7 閉会の言葉 浦山 太市 副会長

CS導入を通じて中学生の素晴らしいパワーを地域に取り込み、安全面・保険等への配慮を十分に行いながら、地域・学校が一体となって子どもたちを育んでいく重要性がまとめとして述べられました。

以上